18世紀後半のダルバンドとレズギ人

塩野﨑　信也

18世紀の南コーカサス地方は、南側をイラン、北側をロシア、西側をオスマン朝に囲まれ、その3大勢力の衝突の場となっていた。これは、18世紀初頭にイランのサファヴィー朝が崩壊した結果である。その後は、頻繁に支配政権が交代する混乱の時代が続いた。さらに18世紀後半には、いずれの中央政府の支配からも独立した地方君主たちが数多く出現し、その混乱に拍車をかけた。

しかし、南コーカサス地方の北端に位置する都市ダルバンド（Darband）とその周辺地域では、一定の秩序と安定が成立していた。ダルバンドは、険峻なコーカサス山脈とカスピ海とに囲まれた、狭い回廊状の土地に建設された都市で、南北コーカサスを結ぶ陸上交通の要所である。同時にこの地は、歴史的イラン世界の北端に位置する辺境の地であり、北方の防衛を担う重要な戦略拠点でもあった。

ダルバンドの秩序の形成と維持においては、当時のこの都市を統治した地方君主が大きな役割を果たしたと考えられる。本報告は、18世紀後半に出現した社会秩序がどのようにして形成され、維持されたのかを検証したものである。

この問題を考察する上で特に重要な地方君主は、統治期間が30年近い長期間にわたったファトフ・アリー・ハーン（Fatḥ ʻAlī Xān）である。彼は、元々、ダルバンドの南方に位置する地域、グバ（Qobbe/Quba）の支配者であった。1172/1758-9年、ダルバンドの住民は、当時の地方君主モハンマド・ホセイン・ハーン（Moḥammad Ḥoseyn Xān）に対して叛乱を起こし、彼を追放した。そして、ファトフ・アリー・ハーンを招聘し、その支配を受け入れたのである。

その後、1789年にファトフ・アリー・ハーンが死去するまで、ダルバンド住民は、彼に対し非常に友好的・協力的であった。様々な史料から、住民たちが彼の統治に満足し、彼を支持していたことが分かる。逆に、ダルバンド住民が彼に対する敵対行動をとった事例を史料から見出すことはできない。

しかし、ダルバンド住民と極めて良好な関係を築いていたファトフ・アリー・ハーンのよ

うな事例は、彼の前後の時代には見られないものである。むしろ 18 世紀を通じて見られるのは、自ら支配者を選択し、時に支配者と鋭く対立する住民の姿である。例えば、アフシャール朝の支配下にあった 1735 年から 1747 年には、中央から派遣された知事に対する叛乱が頻発している。また、前述のモハンマド・ホセイン・ハーンのごとく、追放された知事も少なくない。その他の事例からも、ダルバンド住民が、18 世紀を通じて、支配者に対する強い影響力を有していたことが分かる。彼らは、時に支配者を自ら選出するほどであった。

では、ファトフ・アリー・ハーンは、何故ダルバンド住民の支持を得ることができたのだろうか。この問題に深く関係するのが、レズギ人である。レズギ人とは、シルヴァーン地方北部からダゲスターン地方南部にかけての山岳地帯に居住する集団である。18 ～ 19 世紀の史料の多くは、彼らを山賊のような集団として記録している。彼らは、いかなる君主の統治も受け入れない集団とされ、また、当時の史料には、「危険」「勇猛」といったレズギ人のイメージがたびたび登場する。実際に、彼らが引き起こした掠奪事件、誘拐事件なども、いくつか記録されている。彼らは、掠奪や誘拐によって生計を立てる集団であったと考えられる。

一方で、彼らには、「掠奪者」とは別の一面もあった。それは、「傭兵」としての面である。ファトフ・アリー・ハーンの軍隊においても、レズギ人の傭兵は大きな役割を果たしており、様々な史料の記述から、彼の軍隊がレズギ人の傭兵を主力に構成されていたことが分かる。彼らに対する俸給は、ファトフ・アリー・ハーンの支出の大きな部分を占めていたという。

レズギ人たちは、ファトフ・アリー・ハーンに傭兵として継続的に雇われることで、掠奪以外の生活手段を得ることができた。そのためにレズギ人たちの暮らしは安定し、掠奪や誘拐事件の発生数は大幅に減少したと考えられる。近隣地域の掠奪へと向かうレズギ人のエネルギーが、ファトフ・アリー・ハーンによって他地域への遠征へと振り向けられた、と言い換えることもできよう。

そして、彼らへの俸給の財源となったのは、ダルバンドをはじめとする、支配地域の住民の税であった。あえて極論するならば、ファトフ・アリー・ハーンは、富を分配し、周辺地域全体の治安を安定させる、一種の装置として機能していたのである。

同時に、レズギ人傭兵の兵力によって、ファトフ・アリー・ハーンは、近隣の他の地方君主たちに対する軍事的優位を獲得することができた。それらが合わさった結果として、ダルバンドとその周辺地域に安定した社会秩序がもたらされたのではないだろうか。ファトフ・アリー・ハーンは、治安の安定に対する最大の障害となっていたレズギ人たちを自身の軍に組み込むことで、地域の社会秩序の形成に成功したのである。こうしてもたらされた秩序・安定こそが、ダルバンド住民が彼を支持した最大の理由だったと考えられる。

（京都大学大学院文学研究科博士課程）